

目 次

第1章 伴侶動物の診療 …………… (編集：滝口満喜) 1	2) 尿検査 …………… (前田真吾) 31
1. 一般的な診療の進め方 …………… (辻本 元) 1	3) 糞便検査 …………… (前田真吾) 31
2. 病歴の聴取 …………… 1	4) 体腔液検査 …………… (前田真吾) 32
1) クライアントとの接し方 …………… (滝口満喜) 1	5) 生 検 …………… (盆子原 誠) 33
2) 病歴聴取の目的 …………… (滝口満喜) 2	6) 微生物検査 …………… (盆子原 誠) 33
3) 病歴の要素 …………… (辻本 元) 2	9. 輸液療法と栄養管理 …………… 33
3. 身体検査 …………… (辻本 元) 5	1) 輸液療法の適応 …………… (岡野昇三) 33
1) 全体の観察 …………… 5	2) 輸液剤の選択と輸液法 …………… (岡野昇三) 34
2) バイタルサイン, 体重 …………… 6	3) 輸液量とモニター …………… (岡野昇三) 38
3) ボディコンディションスコア …………… 6	4) 疾患時の栄養評価と栄養療法の適応 … (大野耕一) 39
4) 各部位の身体検査 …………… 6	5) 栄養要求量 …………… (大野耕一) 39
4. 診療記録 …………… (岩崎利郎) 10	6) 重症例に対する栄養療法 …………… (大野耕一) 40
1) 役 割 …………… 10	第2章 循環器疾患 …………… (編集：小山秀一) 43
2) 記載法 …………… 10	1. 心不全の基礎 …………… (小山秀一) 43
3) 電磁的記録による保存について …………… 10	1) 心不全の原因 …………… 43
4) 診療記録の保存 …………… 10	2) 心不全の分類 …………… 43
5. 説明と同意 …………… (岩崎利郎) 11	3) 心不全の病態生理 …………… 44
1) 獣医師と飼育者の立場 …………… 11	4) 代償機構 …………… 44
2) EBM …………… 11	5) 心不全の徴候 …………… 46
6. 全身的な臨床徴候に対する鑑別診断 …… (滝口満喜) 12	6) 心不全の診断 …………… 46
1) 体重増加 …………… 12	2. 心不全における治療と管理 …………… (中村健介) 46
2) 腹部膨満 …………… 13	1) 急性心不全の治療 …………… 46
3) 浮 腫 …………… 15	2) 慢性心不全の治療 …………… 47
4) 体重減少 …………… 15	3. 心機能の評価 …………… (竹村直行) 48
5) 成長不良 …………… 16	1) 問診と身体検査 …………… (竹村直行) 48
6) 虚 弱 …………… 17	2) 心臓の聴診 …………… (竹村直行) 50
7) 不 穏 …………… 18	3) 胸部 X 線検査 …………… (茅沼秀樹) 52
8) 食欲不振 …………… 18	4) 心電図 …………… (福島隆治) 55
9) 多 食 …………… 19	5) 心エコー図検査 …………… (堀 泰智) 57
10) 発 作 …………… 22	4. 先天性心疾患 …………… 64
7. 身体検査の異常所見に対する鑑別診断 …………… 24	1) 動脈管開存 …………… (上地正実) 64
1) 発 熱 …………… (大野耕一) 24	2) 肺動脈狭窄 …………… (上地正実) 65
2) 低体温 …………… (大野耕一) 25	3) 大動脈狭窄 …………… (上地正実) 66
3) 蒼 白 …………… (奥田 優) 25	4) 心室中隔欠損 …………… (上地正実) 67
4) 充 血 …………… (奥田 優) 26	5) 心房中隔欠損 …………… (上地正実) 68
5) チアノーゼ …………… (藤井洋子) 26	6) 三尖弁異形成 …………… (菅野信之) 69
6) 黄 疸 …………… (奥田 優) 26	7) ファロー四徴症 …………… (菅野信之) 70
7) 点状出血, 斑状出血 …………… (奥田 優) 27	8) アイゼンメンガー症候群 …………… (菅野信之) 70
8) 異常心音と心雑音 …………… (藤井洋子) 27	9) 血管輪の異常 …………… (菅野信之) 70
9) 脈の変化 …………… (藤井洋子) 29	5. 後天性弁膜疾患 …………… (中村健介) 71
8. 臨床検査 …………… (前田真吾) 30	1) 粘液腫様変性 …………… 71
1) 血液検査 …………… (前田真吾) 30	

2) 感染性心内膜炎	77	3. 鼻腔の疾患	(藤原亜紀) 115
6. 心筋疾患	78	1) 猫のウイルス性上部気道感染症, 慢性副鼻腔炎	115
1) 拡張型心筋症	(青木卓磨) 78	2) 真菌性鼻炎	116
2) 肥大型心筋症	(青木卓磨) 81	3) 細菌性鼻炎	117
3) 拘束型心筋症	(藤井洋子) 84	4) リンパ球形質細胞性鼻炎	118
4) 不整脈原性右室心筋症	(藤井洋子) 84	5) 外鼻孔狭窄	119
5) 分類不能心筋症	(藤井洋子) 84	6) 腫瘍	119
6) 心筋炎	(藤井洋子) 84	7) 異物による鼻炎	121
7. 心膜疾患および心臓の腫瘍	(鈴木亮平) 85	8) 歯牙疾患による鼻炎	121
1) 腹膜心膜横隔膜ヘルニア	85	9) 犬ハイダニ症	122
2) 心タンポナーデ	86	4. 咽頭と喉頭の疾患	(藤原亜紀) 122
3) 心臓の腫瘍	88	1) 猫の形質細胞性歯肉炎・口内炎・咽頭炎	122
8. 犬糸状虫症	(日高勇一) 89	2) 猫の鼻咽頭ポリープ	122
9. 心調律障害	(福島隆治) 93	3) 鼻咽頭の異物	123
1) 不整脈の基礎	93	4) 鼻咽頭の腫瘍	123
2) 身体検査による不整脈の確認	95	5) 短頭種気道症候群	123
3) 心電図による不整脈の確認	95	6) 喉頭麻痺	125
4) 正常洞調律の心電図波形	95	7) 喉頭炎(猫のリンパ球形質細胞性咽喉頭炎)	127
5) 洞調律	96	8) 喉頭腫瘍	128
6) 異所性刺激生成異常	96	5. 気管と気管支の疾患	(山谷吉樹) 129
7) 刺激伝導異常	98	1) 犬伝染性気管気管支炎	129
8) 刺激生成異常および伝導異常の 合併による不整脈	100	2) 犬の慢性気管支炎	129
9) 不整脈に対する治療	100	3) 気管虚脱・気管支軟化症	130
10. 血栓塞栓症(心原性)	101	4) 猫の喘息・慢性気管支炎	131
1) 末梢動脈血栓症	(田中綾) 101	5) 気管支拡張症	132
2) 静脈の血栓および肺動脈血栓	101	6) 気管腫瘍・気管支腫瘍	133
11. 高血圧	(望月庸平) 102	6. 肺の疾患	(中村健介) 134
1) 全身性高血圧症	102	1) 肺腫瘍	134
2) 肺高血圧症	103	2) 肺炎	134
第3章 呼吸器・胸腔疾患	(編集: 藤田道郎) 106	3) 肺水腫	140
1. 呼吸器疾患の臨床徴候と診断法	106	4) 肺気腫	141
1) 鼻漏(鼻汁排出)	(藤田道郎) 106	5) 肺血栓塞栓症	142
2) 逆くしゃみ	(藤田道郎) 107	7. 胸腔および縦隔の疾患	143
3) 咳	(藤田道郎) 108	1) 胸膜滲出	(鈴木周二) 143
4) 呼吸様式	(藤田道郎) 109	2) 膿胸	(鈴木周二) 145
5) 聴診	(藤田道郎) 110	3) 乳び胸	(鈴木周二) 146
6) 打診	(藤田道郎) 110	4) 気胸	(鈴木周二) 148
7) 血液ガス分析	(塗木貴臣) 111	5) 縦隔気腫	(藤原亜紀) 151
2. 呼吸困難に対する救急管理	(中村篤史) 111	6) 縦隔腫瘍	(鈴木周二) 152
1) 呼吸困難の病態生理	112	7) 横隔膜ヘルニア	(鈴木周二) 154
2) 呼吸困難の原因および臨床徴候	112	第4章 消化器・腹腔疾患	(編集: 大野耕一) 156
3) 呼吸困難の診断	113	1. 消化器疾患の臨床徴候	(桃井康行) 156
4) 呼吸困難の治療	115	1) 口臭と流涎	156

2) 嚥下障害	156	2) 巨大食道症	(大田 寛) 191
3) 吐 出	157	3) 食道炎	(大野耕一) 192
4) 嘔 吐	157	4) 癒痕形成による食道狭窄	(大野耕一) 193
5) 下 痢	158	5) 血管輪異常	(大野耕一) 194
6) メレナと血便	159	6) 食道内異物	(巨 敏広) 195
7) しぶり・排便困難	159	7) 食道の腫瘍	(巨 敏広) 196
8) 便失禁	160	8) 食道裂孔ヘルニア	(巨 敏広) 196
9) 便 秘	160	6. 胃の疾患	197
10) 鼓腸, 腹鳴, 放屁	160	1) 急性胃炎	(石岡克己) 197
11) 腹痛と急性腹症	161	2) 胃のびらん・潰瘍	(井手香織) 198
12) 体重減少	161	3) 慢性胃炎	(大野耕一) 199
13) 腹部膨満と腹水	161	4) 胃排出障害	(大野耕一) 199
2. 消化器疾患の診断法	161	5) 胃運動機能障害・胃アトニー	(大野耕一) 200
1) 問診と身体検査	(井手香織) 161	6) 胃拡張捻転症候群	(岡野昇三) 201
2) 糞便検査	163	7) 胃内異物	(巨 敏広) 202
(1) 一般性状	(馬場健司) 163	8) 胃の腫瘍	(馬場健司) 203
(2) 寄生虫・原虫検査	(福本真一郎) 164	7. 腸の疾患	205
(3) 細菌検査	(片岡 康) 166	1) 急性腸炎	(松本浩毅) 205
(4) その他	(馬場健司) 167	2) 感染性腸炎	206
3) 臨床病理検査	(大森啓太郎) 168	(1) ウイルス	(馬場健司) 206
4) X線検査	(桃井康行) 168	(2) 細菌	(五十嵐寛高) 208
5) 超音波検査	(中村健介) 170	(3) 寄生虫	(福本真一郎) 210
6) 内視鏡検査	(巨 敏広) 174	3) 消化不良性疾患	(大田 寛) 218
7) 消化管に対する生検法とその評価	(大野耕一) 176	4) 慢性腸症と腸炎	(大田 寛) 218
3. 消化器疾患に対する一般的治療法	178	5) 蛋白漏出性腸症	(大野耕一) 222
1) 消化器疾患における輸液	(大森啓太郎) 178	6) 閉塞性腸疾患	(松本浩毅) 223
2) 栄養療法	(石岡克己) 178	7) 腸の腫瘍性疾患	(五十嵐寛高) 227
3) 薬物療法	(塚本篤士) 179	8) 便秘と巨大結腸症	(五十嵐寛高) 228
4. 口腔内疾患	(渡邊一弘) 182	9) 直腸・肛門の疾患	(五十嵐寛高) 229
1) 歯周疾患 (辺縁性歯周疾患)	182	8. 消化器関連性の腹膜疾患	(大野耕一) 233
2) 根尖周囲病巣 (根尖病巣, 根尖性歯周炎)	182	1) 腸穿孔と細菌性腹膜炎	233
3) 口腔鼻腔瘻	184	2) 癌性腹膜炎	234
4) 晩期残存乳歯 (乳歯遺残)	185	第5章 肝臓・胆道・膵外分泌疾患	(編集: 坂井 学) 235
5) 歯の吸収病巣 (猫の破歯細胞性吸収病巣, 歯頸部吸収病巣)	185	1. 肝胆道系疾患の臨床徴候	(坂井 学) 235
6) 猫の歯肉口内炎 (尾側口内炎)	186	1) 黄 疸	235
7) 歯原性嚢胞	186	2) 腹部膨満	235
8) エナメル質形成不全 (エナメル質低形成)	187	3) 肝性脳症	236
9) 咬 耗	187	4) 止血異常	236
10) 唾液瘤 (唾液腺粘液瘤)	187	5) 多飲多尿	236
11) 軟口蓋過長症	188	2. 肝胆道系疾患の検査法	237
12) 口蓋裂	189	1) 臨床病理検査	(大野耕一) 237
13) 口腔内腫瘍	189	2) 画像検査	(滝口満喜) 239
5. 咽頭, 食道の疾患	190	3) 肝生検	(鳥巢至道) 244
1) 咽頭部の機能不全	(大田 寛) 190	3. 膵臓の検査法	246

1) 臨床病理検査	(大田 寛)	246	3) アルポート症候群		290
2) 画像検査	(滝口満喜)	247	4) ファンconi症候群		290
3) 膀胱鏡	(坂井 学)	249	5) その他		290
4. 犬の肝胆道系疾患		249	4. 腎障害		290
1) 慢性肝炎	(坂井 学)	249	1) 急性腎障害, 急性腎不全	(下川孝子)	290
2) 急性肝傷害	(大野耕一)	252	2) 慢性腎臓病	(三品美夏)	296
3) 先天性血管異常	(鳥巢至道)	253	5. 糸球体疾患	(矢吹 映)	300
4) 原発性門脈低形成	(坂井 学)	254	6. 尿路感染症	(下川孝子)	303
5) 肝臓の腫瘍と結節性過形成	(浅野和之)	255	7. 尿石症(尿路結石症)	(星 史雄)	306
6) 肝膿瘍と肝嚢胞	(滝口満喜)	258	8. 猫の特発性膀胱炎	(矢吹 映)	311
7) 先天代謝異常	(大和 修)	259	9. 排尿障害	(米澤智洋)	313
8) 二次性肝障害	(金子泰之)	260	1) 総論		313
9) 胆嚢および胆管の疾患	(鳥巢至道)	260	2) 神経原性排尿障害		314
5. 猫の肝胆道系疾患		263	3) 非神経原性排尿障害		316
1) 肝リピドーシス	(大野耕一)	263	4) 膀胱アトニー		319
2) 胆管炎	(金子泰之)	264	10. 腎・泌尿器の腫瘍	(高橋 雅)	319
3) 肝臓の腫瘍と結節性過形成	(浅野和之)	266	1) 膀胱腫瘍		319
4) 先天性血管異常	(鳥巢至道)	267	2) 腎臓腫瘍		320
5) 急性肝傷害	(大野耕一)	269	3) 尿道腫瘍		320
6) 二次性肝障害	(大野耕一)	270			
7) 胆嚢および胆管の疾患	(鳥巢至道)	270	第7章 内分泌・代謝性疾患	(編集: 西飯直仁)	321
8) アミロイド症	(大野耕一)	271	1. 水・電解質の代謝異常	(松木直章)	321
6. 肝不全と門脈圧亢進症	(坂井 学)	272	1) 水・電解質の代謝異常		321
7. 膵外分泌疾患		274	2) カルシウム・リン・マグネシウム		323
1) 急性膵炎	(大田 寛)	274	2. 視床下部・下垂体の疾患	(西飯直仁)	326
2) 慢性膵炎	(坂井 学)	276	1) 尿崩症		326
3) 膵外分泌不全症	(坂井 学)	277	2) 猫の先端巨大症		327
4) 膵外分泌腺の腫瘍	(関 真美子)	278	3) 下垂体性矮小症		327
第6章 腎・泌尿器疾患	(編集: 矢吹 映)	279	3. 甲状腺の疾患	(西飯直仁)	328
1. 腎・泌尿器疾患の臨床徴候	(下川孝子)	279	1) 甲状腺機能低下症		328
1) 排尿頻度および尿量の異常		279	2) 甲状腺機能亢進症		329
2) 排尿障害		279	4. 上皮小体の疾患	(松木直章)	331
3) 不適切な場所や時間の排尿		280	1) 上皮小体機能亢進症		331
4) 尿の色調や尿臭の異常		280	2) 上皮小体機能低下症		333
5) 尿毒症		281	5. 副腎の疾患	(森 昭博)	333
6) 腎臓の大きさや形態の異常		281	1) 副腎皮質機能亢進症		333
2. 腎・泌尿器疾患の検査法		282	2) 副腎皮質機能低下症		338
1) 臨床病理検査	(矢吹 映)	282	3) 猫の原発性アルドステロン症		339
2) 画像検査	(三品美夏)	286	4) 褐色細胞腫		339
3) 腎生検	(矢吹 映)	287	6. 膵内分泌疾患	(松木直章)	340
4) その他の検査法	(三品美夏)	288	1) 糖尿病と糖尿病性ケトアシドーシス		340
3. 腎泌尿器の先天異常	(大和 修)	288	2) インスリンノーマ		345
1) 多発性嚢胞腎		289	7. 性腺の疾患		346
2) 腎形成不全症		289	8. ビタミンの代謝異常	(森 昭博)	346
			9. 微量元素の代謝異常	(森 昭博)	347

10. 肥満と高脂血症	(西飯直仁)	348	ミトコンドリア脳筋症)	412	
1) 肥満		348	2) 糖原病	412	
2) 高脂血症 (脂質異常症)		349	3) 悪性高熱	413	
第8章 神経疾患	(編集:長谷川大輔)	351	4) 糖質コルチコイド過剰症	413	
1. 神経疾患の検査法と診断の基本		351	5) 甲状腺機能障害	413	
1) 神経学的検査	(齋藤弥代子)	351	6) 低カリウム性筋疾患	414	
2) 脳病変の局所診断	(徳力幹彦)	359	4. 遺伝性疾患	(稲葉 睦)	414
3) 脊髄および末梢神経病変の 局在診断	(宇塚雄次)	361	1) 筋ジストロフィー	414	
4) 診断的検査	(宇塚雄次)	363	2) ラミニン欠損症	415	
2. 脳の疾患		368	3) 先天性筋緊張症	416	
1) 変性疾患	(長谷川大輔)	368	5. 神経筋接合部疾患	(宇塚雄次)	416
2) 先天性疾患	(北川勝人)	371	1) 重症筋無力症	416	
3) 代謝性疾患	(長谷川大輔)	374	第10章 関節疾患	(編集:滝口満喜)	420
4) 腫瘍性疾患	(北川勝人)	376	1. 関節疾患の臨床徴候と診断法	(泉澤康晴)	420
5) 炎症性疾患	(長谷川大輔)	378	1) 臨床徴候	420	
6) 感染性疾患	(北川勝人)	380	2) 診断法	420	
7) てんかんおよび発作性障害	(長谷川大輔)	383	2. 非感染性関節炎	(奥村正裕)	421
8) 外傷性, 脳血管障害性疾患	(北川勝人)	387	3. 感染性関節炎	(奥村正裕)	425
3. 脊髄疾患		391	1) 細菌性関節炎	426	
1) 変性性疾患	(神志那弘明)	391	2) マイコプラズマ性関節炎	428	
2) 先天性疾患	(神志那弘明)	391	3) ウイルス関連関節炎	428	
3) 腫瘍性疾患	(神志那弘明)	392	4) その他	428	
4) 炎症性疾患	(伊藤大介)	393	4. 非炎症性関節疾患	(藤木 誠)	428
5) 損傷性疾患	(伊藤大介)	395	1) 変形性関節症	428	
6) 血管性疾患	(伊藤大介)	398	2) 発育期の関節疾患	429	
4. 末梢神経系の疾患	(西田英高)	399	3) 外傷性関節疾患	431	
1) 脳神経の疾患		399	第11章 血液疾患	(編集:奥田 優)	434
2) 脊髄神経の疾患		403	1. 造血機構と血球	(久末正晴)	434
3) 自律神経系の疾患		405	1) 造血のメカニズム	434	
第9章 筋疾患	(編集:宇塚雄次)	406	2) 赤血球	434	
1. 筋疾患の臨床徴候と診断法	(宇塚雄次)	406	3) 白血球	434	
1) 一般的な臨床徴候		406	4) 血小板	436	
2) 診断		406	5) 造血支持細胞	436	
2. 炎症性筋疾患	(内田和幸)	408	2. 血液検査		437
1) 免疫介在性多発性筋炎		408	1) 全血球数算定	(井手香織)	437
2) 咀嚼筋炎		409	2) 網状赤血球検査	(井手香織)	437
3) 外眼筋炎 (眼筋炎)		410	3) 末梢血液塗抹における 血球形態検査	(井手香織)	438
4) 皮膚筋炎		410	4) 骨髓検査	(井手香織)	443
5) 感染性筋炎		411	5) 腫瘍およびリンパ節の細胞診・生検	(井手香織)	445
6) その他の炎症性筋症		412	6) 血液凝固線溶系検査	(井手香織)	447
3. 代謝性・内分泌性筋疾患	(伊藤大介)	412	7) 直接クームス試験	(打出 毅)	447
1) ミトコンドリア筋症 (ミトコンドリア病・			8) 抗核抗体試験	(打出 毅)	448

9) 直接免疫抗体法	(打出 毅)	448	10. 免疫不全症	(水野拓也)	516
10) フローサイトメトリー検査	(後藤裕子)	448	1) 先天性免疫不全症		516
11) 遺伝子検査	(後藤裕子)	451	2) 後天性免疫不全症		517
3. 輸血	(瀬川和仁)	452	第12章 皮膚疾患	(編集：岩崎利郎, 西藤公司)	519
1) ドナーの選定と血液の保存		452	1. 皮膚の構造と機能	(西藤公司)	519
2) 血液型検査と交差適合性試験		452	1) 皮膚の構造		519
3) 輸血中のモニターと輸血副反応		454	2) 皮膚の機能		521
4. 貧血と赤血球増加症		454	2. 皮膚疾患の徴候と診断	(永田雅彦)	521
1) 貧血	(辻本 元)	454	1) シグナルメント	(永田雅彦)	521
2) 赤血球増加症	(古家 優)	461	2) 病歴	(永田雅彦)	522
5. 白血球増加症と白血球減少症	(奥田 優)	462	3) 発疹	(永田雅彦)	522
1) 急性相蛋白		462	4) 皮膚科検査	(西藤公司)	524
2) 好中球増加症と好中球減少症		463	3. 外部寄生虫症	(村山信雄)	525
3) 好酸球増加症と好酸球減少症		466	1) 耳ヒゼンダニ症 (耳疥癬)		525
4) 好塩基球増加症		467	2) 疥癬		526
5) 単球増加症		467	3) 毛包虫症 (ニキビダニ症)		526
6) リンパ球増加症とリンパ球減少症		468	4) ツメダニ症		527
6. 止血異常と血栓症		469	5) シラミ症		527
1) 止血機構と臨床検査	(丸山治彦)	469	4. 細菌性および真菌性皮膚疾患		528
2) 血小板の異常による疾患	(丸山治彦)	472	1) 細菌性皮膚疾患	(山崎真大)	528
3) 二次止血異常症	(丸山治彦)	474	2) 皮膚真菌症	(加納 暁)	530
4) 播種性血管内凝固	(丸山治彦)	476	5. アレルギー性皮膚疾患	(前田貞俊)	534
5) 血栓塞栓症	(高橋 雅)	477	1) アトピー性皮膚炎と皮膚食物有害反応		534
7. リンパ造血器腫瘍		479	2) ノミアレルギー性皮膚炎		539
1) リンパ造血器腫瘍の分類	(辻本 元)	479	3) アレルギー性接触皮膚炎		540
2) リンパ腫	(辻本 元)	481	6. 免疫介在性皮膚疾患	(西藤公司)	540
3) 白血病	(久末正晴)	489	1) 天疱瘡		540
4) 骨髄異形成症候群	(久末正晴)	491	2) 自己免疫性表皮下水疱症		541
5) 骨髄増殖性腫瘍	(久末正晴)	494	3) エリテマトーデス		542
6) 形質細胞腫瘍	(久末正晴)	495	4) 多形紅斑		543
7) 犬の組織球系腫瘍	(小林哲也)	497	5) 中毒性表皮壊死症		544
8) 猫の組織球系腫瘍	(小林哲也)	500	6) 特発性無菌性結節性脂肪織炎		544
8. 免疫介在性血液疾患	(森下啓太郎)	500	7. 角化症	(永田雅彦)	545
1) 免疫介在性血液疾患の発生機序と種類		500	1) 先天性 (本態性) 角化症		545
2) 免疫介在性溶血性貧血		501	2) 後天性角化症		547
3) 非再生性免疫介在性貧血と赤芽球癆		504	8. 先天性および遺伝性皮膚疾患	(西藤公司)	547
4) 免疫介在性好中球減少症		506	1) エーラス・ダンロス症候群		547
5) 免疫介在性血小板減少症		507	2) 先天性表皮水疱症		548
6) 免疫介在性血液疾患の治療		508	9. 脱毛が認められる疾患	(村山信雄)	548
9. 感染性血液疾患		510	1) 副腎皮質機能亢進症		548
1) ヘモプラズマ症	(馬場健司)	510	2) 甲状腺機能低下症		549
2) エールリヒア症	(馬場健司)	511	3) 性ホルモン関連皮膚症 (性ホルモン失調)		550
3) アナプラズマ症	(遠藤泰之)	512	4) 毛周期停止症 (脱毛症 X)		550
4) 犬のバベシア症	(遠藤泰之)	513	5) パターン脱毛症		551
5) ヘパトゾーン症	(遠藤泰之)	515			

10. 猫の癢痒性皮膚疾患 …………… (大嶋有里) 551	1) 偽妊娠 (仮性妊娠) …………… 576
1) 粟粒性皮膚炎 …………… 551	2) 習慣性流産 (黄体機能不全) …………… 577
2) 自傷性脱毛症 …………… 552	3) 流死産 …………… 577
3) 頭頸部の搔破痕 …………… 552	6. 分娩時および分娩後の疾患 …………… (堀 達也) 578
4) 好酸球性肉芽腫群 …………… 553	1) 難産 …………… 578
11. 腫瘍性皮膚疾患 …………… (内田和幸) 553	2) 胎盤停滞・胎子遺残 …………… 579
1) 分類 …………… 554	3) 子宮脱 …………… 579
2) 主な上皮性腫瘍 …………… 554	4) 低カルシウム血症 (産褥テタニー) …………… 579
3) 非上皮性腫瘍 …………… 557	5) 胎盤付着部退縮不全 …………… 579
12. 外耳炎・中耳炎 …………… (西藤公司) 561	7. 陰囊, 陰茎, 包皮, 精巣の疾患 …………… 580
1) 外耳炎 …………… 561	1) 陰囊炎 …………… (小林正典) 580
2) 中耳炎 …………… 562	2) 陰茎損傷 …………… (小林正典) 580
3) 外耳炎・中耳炎の管理 …………… 563	3) 陰茎持続勃起症 …………… (小林正典) 580
第13章 生殖器疾患 …………… (編集:堀 達也) 564	4) 包茎および嵌頓包茎 …………… (小林正典) 581
1. 生殖器の先天異常 …………… (小林正典) 564	5) 亀頭包皮炎 …………… (小林正典) 582
1) 間性 (半陰陽) …………… 564	6) 潜在精巣 …………… (河上栄一) 582
2) 単角子宮 …………… 565	7) 精巣炎 …………… (小林正典) 583
3) 肉柱・腔弁遺残 …………… 565	8) 精巣腫瘍 …………… (小林正典) 583
4) 陰門狭窄 …………… 565	9) 生殖不能症 (造精機能障害) …………… (河上栄一) 585
2. 発情の異常および卵巣の疾患 …………… (堀 達也) 566	8. 犬の前立腺疾患 …………… 586
1) 発情周期に伴う腔スメアの変化 …………… 566	1) 前立腺肥大症 …………… (河上栄一) 586
2) 発情の異常と卵巣の疾患の関係 …………… 566	2) 前立腺嚢胞 …………… (河上栄一) 587
3) 卵巣発育不全 …………… 567	3) 前立腺炎 …………… (河上栄一) 587
4) 鈍性発情 (微弱発情) …………… 567	4) 前立腺膿瘍 …………… (河上栄一) 588
5) 分裂発情 …………… 567	5) 前立腺癌 …………… (小林正典) 588
6) 排卵遅延・無排卵 …………… 567	9. 可移植性性器腫瘍 …………… (河上栄一) 590
7) 卵巣嚢腫 (卵胞嚢腫・黄体嚢腫) …………… 568	第14章 感染症 …………… (編集:遠藤泰之, 原田和記) 592
8) 卵巣腫瘍 …………… 569	1. 感染症の検査と診断 …………… (遠藤泰之) 592
9) 卵巣遺残症候群 …………… 569	1) 感染症を疑う症例のアプローチ …………… 592
10) 猫の自然排卵 …………… 570	2) 検査方法 …………… 592
3. 子宮および腔の疾患 …………… (堀 達也) 570	3) 臨床材料の取扱い …………… 594
1) 犬の子宮蓄膿症 …………… 570	2. 抗菌薬の種類と治療 …………… (原田和記) 595
2) 猫の子宮蓄膿症 …………… 571	1) 抗菌薬療法の目指すべき目標および 抗菌薬の慎重使用 …………… 595
3) 子宮水症・子宮粘液症 …………… 572	2) 抗菌薬の選択 …………… 595
4) 子宮の腫瘍 …………… 572	3. 感染症の予防 …………… (宝達 勉, 高野友美) 599
5) 腔脱・腔過形成 …………… 573	1) ワクチンの定義 …………… 599
6) 腔炎 …………… 574	2) ワクチンの種類とアジュバント …………… 600
7) 腔の腫瘍 …………… 574	3) ワクチン接種の目的 …………… 600
4. 乳房疾患 …………… (堀 達也) 575	4) コアワクチンとノンコアワクチン …………… 601
1) うつ乳症・無乳症 …………… 575	5) ワクチン接種と宿主側の要因 …………… 601
2) 乳房炎 …………… 575	6) ワクチネーションプログラム …………… 601
3) 乳腺腫瘍 …………… 575	7) ワクチン接種と免疫持続期間 …………… 601
4) 猫の乳腺線維腺腫様過形成 …………… 576	8) ワクチン接種による副反応 …………… 603
5. 妊娠中の疾患および偽妊娠 …………… (堀 達也) 576	

4. ウイルス感染症	604	1) クリプトコックス症	631
1) 犬のウイルス感染症	(前田 健) 604	2) ヒストプラズマ症	632
2) 猫のウイルス感染症	610	3) コクシジオイデス症	633
(1) 猫パルボウイルス感染症	(前田 健) 610	4) プラストミセス症	633
(2) 猫コロナウイルス感染症	(遠藤泰之) 611	5) スポロトリクス症	634
(3) 猫白血病ウイルス感染症	(遠藤泰之) 613	6) アスペルギルス症	635
(4) 猫免疫不全ウイルス感染症	(遠藤泰之) 614	7) カンジダ症	635
(5) 猫ヘルペスウイルス感染症	(前田 健) 616	8) ニューモシスチス症	635
(6) 猫カリシウイルス感染症	(前田 健) 617	9) プロトテカ症	635
3) その他のウイルス感染症	619	7. 原虫感染症	635
(1) 狂犬病	(前田 健) 619	1) バベシア症	635
(2) 仮性狂犬病 (オーエスキー病)	(岡林環樹) 620	2) ヘパトゾーン症	635
(3) ボルナ病	(堀江真行) 621	3) トキソプラズマ症	(遠藤泰之) 635
(4) インフルエンザ	(松鶴 彩) 623	4) ネオスポラ症	636
(5) SFTS	(松鶴 彩) 623	5) コクシジウム症	636
5. 細菌感染症	(原田和記) 624	6) ジアルジア症	636
1) レプトスピラ症	624	7) トリコモナス症	636
2) ブルセラ症	626	8) クリプトスポリジウム症	(遠藤泰之) 636
3) ヘモプラズマ症	627	9) リーシュマニア症	(松本芳嗣) 636
4) バルトネラ症	627	付表 1 薬物と用量	(桃井康行) 638
5) ライム病	628	付表 2 臨床検査項目の基準範囲	(根尾櫻子) 659
6) エールリヒア症	628	略 語	668
7) アナプラズマ症	628	索 引	675
8) リケッチア症	628		
9) クラミジア症	629		
10) 敗血症	629		
6. 真菌感染症	(加納 壘) 631		